

再生可能エネルギー担当行政官や技術者が 北九州市環境ミュージアムで水素社会を学びます。

SDGs 持続可能な開発目標のゴール7は

『エネルギーをみんなにそしてクリーンに』

2030年までにクリーンで経済的なエネルギーをすべての人々に届けるには、再生可能エネルギーの利用がかかせないものとなっています。本コースでは、5週間での講義、演習、民間企業への訪問を通じて、太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの最新技術を学び、自国で太陽光発電普及させるため展望と課題を明らかにしていきます。9名の太陽光発電の国の行政官や技術者が参加



しており、いずれの国も再生可能エネルギーの導入を活発に進めようとしている国々です。

本コースが終わりに近づく7月23日、研修員たちは、北九州市環境ミュージアムを訪問し、二酸化炭素を発生させない究極のクリーンエネルギーである水素社会の取り組みについて学びます。さらに、水素で走る燃料電池自動車のMIRAI（ミライ）の乗車体験も行われます。研修員からは活発な質問や意見がたくさん聞かれそうです。

ぜひ取材・報道をご検討ください。

- 研修コース名 : 再生可能エネルギー導入計画 太陽光発電を例として (A)
- 研修期間 : 2019年6月16日～2019年7月27日
- 協力機関 : 公益財団法人 北九州国際技術協力協会 KITA
- 研修員 : 9名 (アルジェリア、ブラジル、エジプト、インド、モンゴル、パラグアイ、スリランカ、チュニジア)
- 取材可能日

日付	時間	内容	場所
7/23 火	13:00～16:00	水素ステーション、スマート水素ステーション実証事業や、燃料電池自動車の普及に向けて水素社会への取り組みについての説明、燃料電池公用車である MIRAI の紹介	環境ミュージアム 北九州市八幡東区東田 2-2-6

※本プレスリリースはウェブサイトでもご覧いただけます。 <https://www.jica.go.jp/kyushu/press/index.html>

問い合わせ先 JICA九州 研修業務課 小川、北條 093-671-8355